

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	2190800017		
法人名	株式会社 岐北測量コンサルタント		
事業所名	グループホーム ききょう		
所在地	岐阜県山県市東深瀬505番地の2 (電話) 0581-22-5611		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年9月27日	評価確定日	平成19年10月22日

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 3 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	25,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(退居時に返還)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 3 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.8 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇野クリニック	尾野歯科
---------	---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の広い土地に開設された、新築平屋1ユニットのホームである。開設に当たり、「地域社会とつながりをしっかり持つ」という理念を掲げることで、近隣に反対者も無く、地域住民からは、ホームの役割が理解され、地域福祉の拠点として期待されている。運営者と職員の2名は、地元の出身で、親の認知症介護の経験者でもある。共通な熱い思いと情熱を持ってケアに取り組んでおり、ゆっくりと自分のペースで暮らしができるよう支援している。また、経験豊富な看護師のケアマネジャーは、介護職員と一緒に、安眠剤の全廃と、オムツ外しに取り組み、大きな成果を上げている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回は初回の外部評価であり、多くの面で、検討を重ねながら改善に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	全職員から、自己評価に対する意見を集約し、アンケートを取りながら現状を把握する取り組みが行われた。運営者は、設立初年度でもあり、改善に繋がることは、前向きに取り組む方針を示している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 市との取り決めにより、3ヶ月毎の開催となっている。ホーム側の説明に対して参加者から意見を求める会議になっており、具体的な討議課題を設定し、ホーム運営に反映する取り組みになるよう努力する意向である。
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居の際、意見・苦情を遠慮なく出してもらうように十分に説明し、また、口答でも繰り返し呼びかけているが、運営への反映までには至っていない。今後は、家族とのコミュニケーションを十分に取っながら、何でも言い合える、良好な関係作りをめざしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議には自治会長が加わっており、防災面の協力や自治会活動への連携が進行中である。今後は、利用者の外出機会を多くして、地域近隣の人々との触れ合いや交流の場を支援していく姿勢にある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会とつながりをしっかり持ち、誰でもが入居したいと思えるホームを目指した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、朝のミーティングや定例会議で確認しながら共有し、利用者本位の暮らしを支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設初年度でもあり、自治会加入や地元行事への参加等はこれからの段階である。	○	運営者・職員は地元の出身者で占めており、また、地域資源には恵まれた環境にもあるので、積極的な交流を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を全職員で検討し、改善に向けて、ホームの理念に反映している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市との取り決めにより、3ヵ月毎に開催されている。自己評価表も配布し、会議での検討課題となっている。	○	運営推進会議の委員には、地域の代表者も入っているため、検討した課題をホームのサービス向上につなげていけるよう、更なる成果を期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催するケアマネジャー会議への参加、介護相談員の受け入れ、介護事業者協議会への参加等、市との連携がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に生活状況を詳しく報告し、特に必要なことが起きた場合は、その都度電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に意見を聴く時間を設けている。意見・苦情は受付ノートに記録し、結果を家族に報告できる体制がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は、1名のみであり、馴染みの関係が維持されている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例会議で法人内研修の機会を多く設けている。また、認知症対応マニュアルを用意し、業務を通して学ぶ環境を作っている。職員の中には介護福祉士を目指し学習している者もある。	○	より専門性を目指した研修受講の機会があるとさらに良いと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の1事業者と、市外（関市）の1事業者との交流があり、後発事業者として、運営全般に亘り勉強している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	運営者・職員は地元の人なので、話題の共通点が多く、徐々に馴染めるような雰囲気づくりに活かしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を把握し、話題を引き出ししながら、地元の方言で、喜怒哀楽を共有している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の中には、詩吟の先生、編み物の得意な人、地図やお城の好きな人がいて、その場面を何時でも提供できるように、本人の意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で、意見を出し合い、本人・家族とも相談しながら、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヵ月毎の見直しと、状況の変化によっては本人・家族と相談し、随時見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じ、病院の通院、入退院の付き添え移送を支援している。また、外泊希望者にも送迎を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が、ホーム提携医に受診を希望し、月2回の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期への対応は、医師の判断、家族と相談しながら、ホームで出来るところまで、ケアに努めていく方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や入浴介助などでの気配りや声掛けに配慮している。記録等は事務所に安全に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も急がず、ゆっくり、利用者のペースを優先している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、食事の配膳・片付けに参加し、食欲も旺盛で、食事をゆっくり楽しんでいる。定期的に嗜好を取り入れたメニューが提供され、調理師資格を持つ管理者が腕をふるっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきに入浴することができ、利用者全員が楽しみにしており、とても満足している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	最高齢の利用者も床のモップ掛け、他の人は洗濯たたみ、テーブル拭き、貼り絵などに取り組んでいた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏期は、車椅子対応の人が多いため、景観もよい広い敷地内を散歩コースにしていた。	○	気候に合わせて、近くの神社への散歩コース（車椅子でも）を日常的に支援していく取り組みに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、見守りで対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で、災害時の協力体制について協議されている。	○	ホーム独自に避難訓練計画を作成し、実践されることが望ましい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養及び水分摂取量は、一日を通じ、およそ把握されている。糖尿病食、刻み食等、個別に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンと広い居間、180cm幅の広い廊下、畳のコーナー、ソファ3箇所、景色の良いベランダ等確保されている。不快な音や光がないように配慮され、快適な空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、家具、装飾品、ぬいぐるみ、賞状など持ち込まれ、居心地よく過ごしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。